

【記者からの質問】

西日本新聞／新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げて2か月。

これまでの対応の自己採点と感じた課題を。

知事／全力でやってきた自負はある。ただ、相手が見えないので、通常の災害対応以上に難しかった。

新型コロナウイルス対策自体が経済の動きを止める側面がある。この両極端の事象への対策が、日々変わっていく。しかも、国と都道府県と市町の役割が、明確化されていない中で、どう対応していくか。

私の持論は、国の感染症対策は、水際対策を中心にきちんとやる。経済対策は、都道府県に任せて、権限や財源を移譲していくやり方がいいと信じている。

責任の主体が明確であった方がいい。危機管理は、有事と同じで、指揮系統や権限、責任の所在が明確にならないといけない。その部分が課題。

今回は、日本人の習慣や連帯で封じ込められている。国や県、市町が、この「日本力」に見合う役割を果たせるよう、頑張っていきたい。

西日本新聞／本日で昨年的大雨から9か月。

住民避難などのソフト面、河川改修などハード面の県の対策状況を。

知事／新型コロナウイルス対策をした避難所のあり方は、マニュアルの形になるだろう。市町に示していきたい。

切迫した危険に対応することを優先させる。コロナウイルス対策をしているうちに、大雨で流されて命を落とすなど、決してあってはいけない。まず、避難があり、その上でのコロナウイルス対策をした避難所の基準を作っていく。

県民に「切迫した危険が優先だ」と伝えることが鍵。

ハード面は、避難所は広めのところ、数も増やさないといけない。今年は、ダムの貯水率が高い。天気予報で、大雨が予測されたら、3日前に事前放流をやっていきたい。利水の関係もあるが、農業関係者にも理解を得て、うまく話し合いができています。良い佐賀県のルールを作っていきたい。

西日本新聞／JR九州が、昨日赤字ローカル線を発表した。

唐津線と筑肥線も含まれている。これに対する受け止めを。

知事／我々としても努力は必要。JRも企業だから、公開していく姿勢はいいと思う。黒字路線も公開してほしい。公共的な主体であるJR九州の情報をガラス張りにして、一緒に支援策を考えるといい。いい活用法を地元とともに考えたい。

指定公共機関は公益性の高い会社。公益性の部分を斟酌してほしい。もともとは皆さんの税金で作った国鉄。それをどうしていくか意見交換し、九州の仲間としての企業にさらに成長するよう、我々もメンバーとして加わりたい。

共同通信／九州新幹線長崎ルートについて。協議が、新型コロナで中断している。

協議再開の前提となる事務レベルでの調整スケジュール、県の姿勢について教えてほしい。

知事／赤羽国土交通大臣と話したとき、「協議に向けて努力する」「その前にしっかり確認する」ことへの了解を得ている。

協議の確認を1往復した。今の状況は、修正意見が鉄道局の方から見え消しが来ている段階。

いくつか修正されている点の確認をしたい。どういつもりで消しているのか。中身そのものに関係する修正が入っ

ているので、それを実直に話し合いたいところだった。それをやろうとしたら、新型コロナの関係で往来が止まった。鉄道局から、早く再開したいと聞いている。このような大事な交渉の、一定の制限が解けるタイミングが6月1日。6月上旬に鉄道局に来てもらい、見え消しについての考えを聞きたい。これは公開でやる。その状況を踏まえ、検討が進められていく流れ。

共同通信／6月には、国交省の誰が来るのか。

知事／審議官か課長である事務方だと思う。こちらで部長でと考えている。

共同通信／佐賀空港のオスプレイ配備について。

明日、防衛省が南川副支所で説明会を開く。それに対する受け止めを。

知事／こちらでコロナの関係で日程が取れない状況が続いた。明日、南川副の説明会。最後の早津江の日程は未定。それで、一通り国の説明が終わる。

国に対しては、お金の問題ではなく、防衛上の必要性・思いを伝えてほしい。漁業者に対し、正面から向き合って王道で話をしてほしい。

それが終わると、漁協での話し合いになってくるだろう。

読売新聞／新型コロナ関連。県の専門家会議を設置していた。それが3月以来開かれていない。

専門家会議を開いて、どんなプロセスで知事の決定がなされたかを公開するのが大事ではないか？

知事／専門家会議が、どのように進められているか、私は承知していない。

いろんな知見を持った方々の意見を集約した健康福祉部や野田統括監と話し合い、必要に応じて医師会の会長や専門の先生方に来てもらい、方向性が間違っていないかチェックしながら進めてきた。

部として、知見の取り入れ方に問題なかったかについては検証した方がいい。しっかり説明させる。

読売新聞／オスプレイ関係。2か所の説明会が終了後、県としての役割は？

知事／県は調整が進むように、見守っていきたい。

漁業者を信じて正面から話してほしい。その中で、県は円滑に議論が進むように調整したい。

佐賀新聞／漁協は組合長の交代を検討している。知事として、新体制の漁協に説明に行くのか？

知事／改選もあると聞いている。

徳永組合長には、一定の整理をつけてほしい。もし代わるなら、新しい組合長と会って説明したい。

これからの交渉の流れ次第だが、私が出ていくべきだと思う。

佐賀新聞／新しい組合長に変わる前に、漁協として方向性を示してほしいということか？

知事／方向性にも濃淡あるだろう。説明会が終わると、その後の方向性について、一定のとりまとめを期待する。

佐賀新聞／SAGA2023について。

鹿児島大会が延期になった場合、佐賀が最初の「国スポ」にならないかもしれない。県として何か動くことは？

知事／私は何も聞いていない。鹿児島、三重、栃木、佐賀の順。今、私からは動く気持ちはない。

それぞれの県の気持ちがわかる。当県は、「新しい国スポは佐賀県大会から」と力を入れている。同じように栃木も「最後の国体」と、力を入れている。少なくとも、その変更はないと信じている。タイミングを見て、伊藤会長とも協議する。

NHK／昨年佐賀豪雨の教訓に関して。

佐賀鉄工所との訓練では、どこに着目し、どう指導するのか？また、他の事業者は何を求めていくのか？
知事／昨年の佐賀豪雨災害の総括は、佐賀鉄工所の新たな体制における訓練だ。
訓練は失敗している。多くの人が参加して、これを公開して、修正することが目的。改善点を話し合い、修正していく。100%上手くできたものをやると、問題点が見えてこない。
この前提を関係者の皆さんに、まず共有してもらいたい。その上で、ハードの整備などを行い、それが機能するか。それから、人の問題。大きな被害を受けるときは、ヒューマンエラーが掛け算になって広がる。これを防ぐために、多くの人に見てもらい訓練をすること。
やってみて足りないところを、繰り返してもいいので相談しながら、それぞれの役割を果たす。そんな気持ちを作れるかどうか、今回の大きなポイント。6月中に実施して欲しい。

NHK／佐賀鉄工所以外の事業者に呼び掛けることは？

知事／事業者の皆さん、それぞれが社会的責務を負っている。さまざまな危機に対して、どう立ち向かっていくのか。各社の状況を踏まえ、同時に考えてほしい。
県は、そういう企業に対して全力で支えていきたい。純粋な気持ちで改善活動をする企業の集団に佐賀がなることを望んでいる。

共同通信／SNSでの誹謗中傷について。プロレスラーの木村花さんのことを念頭に置いているのか？

知事／これはずっと気にしていた。ヤフーニュースは、ニュースごとに自由にコメントを書く。そこには、誹謗中傷に近いものが書かれていて、とても気になっていた。匿名の書き込みがあると、危険な書き込みが追随する。
人は弱い。強がっても心の中にはガラスの部分がある。それを突き刺す環境がそろってきた。
昔は、良くも悪くもこういうものがなかった。今は、人を傷つける言葉が世界中に広がっていく。
これに対して、総務省で規制をしているだろうが、我々が制御するルールを作っていくべき。使い方を間違えると、自分に向かってくることを共有しないといけない。今は、そのタイミング。

朝日新聞／今回の新幹線の協議は、完全に公開か？

知事／そうしたい。

朝日新聞／中のやりとりまで見せてもらえるとありがたい。

知事／これからはガラス張りです。県として、思ったことをストレートに言う。国土交通省もそうしてほしい。

朝日新聞／オスプレイ関係で、説明会後の「一定の取りまとめ」とは？

知事／漁協として、「どう話し合いを進めるのか」という方向性を示してほしい。聞いて終わりではなく、方向性を議論してほしい。